

全農薬通報

No. 355

2026 年（令和 8 年）10 月 1 日

目 次

◎主な行事予定

- ・全国農薬協同組合
- ・植物防疫関係団体

◎組合からのお知らせ

- ・安全協常任幹事会
- ・第 322 回理事会
- ・日本植物防疫協会シンポジウム
- ・報農会シンポジウム及び功績者表彰式

◎行政からのお知らせ

- ・生物農薬に係る各種通知及び原体審査ガイダンスの一部改正について
- ・ゴルフ場で使用される農薬に係る令和 7 年度水質調査結果について

◎全農薬ひろば

- ・ダリア



全国農薬協同組合



〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 23-1 Yunuo ビル 3F

TEL : 03-3254-4171

FAX : 03-3256-0980

<https://www.znouyaku.or.jp> E-mail : info@znouyaku.or.jp

全農薬の主な行事予定

「全国農薬協同組合」

2026 年（令和 8 年）

- 10 月 5 日(月)～ 9 日(金) 第 106 回植物防疫研修会
- 10 月 14 日(水)～16 日(金) 第 13 回農薬安全コンサルタントリーダー研修会
- 10 月 22 日(木) 10：00～12：00 監査会(理事長、監事)
- 11 月 11 日(水) 13：00～15：00 第 323 回理事会
- 11 月 12 日(木) 10：00～12：00 第 61 回通常総会、第 324 回理事会
- 11 月 12 日(木) 13：00～19：00 第 49 回安全協全国集会・情報交換会
- 12 月 10 日(木) 13：30～17：00 第 325 回理事会（執行部協議会、各委員会）
- 12 月 11 日(金) 10：30～12：00 全農薬受発注システム利用メーカー協議会総会

「植防関係団体」

- 11 月 11 日(水) クロップライフジャパン虫供養（浅草寺）



キカラスウリ（黄烏瓜）

撮影場所：本郷弓町

撮影者：宮坂氏

花言葉：『平凡の非凡』『明るい希望』

組合からのお知らせ

1. 第 53 回全国農薬安全指導者協議会常任幹事会 報告

日時：2026 年 7 月 16 日（木）13：00～

場所：全農薬事務所 会議室（千代田区神田東松下町）

参加：木幡副理事長、安武副会長、池田副会長、住江副会長、青木委員、
佐藤友紀委員、金田常任幹事、横澤常任幹事、鈴木慎一郎常任幹事、
高坂常任幹事、湯舟常任幹事、田中常任幹事、久角常任幹事
鈴木参事、植草顧問（計 15 名）

1. 議事

（1）2026 年度事業中間報告の件

① 2026 年度安全協活動状況について以下の報告がなされた

- 1) 安全協 第 48 回全国集会について
- 2) 情報交換会について
- 3) 2026 年度各地区会議について（詳細は通報 352 号）
例年通り研修を安全協ポータルサイトでも実施したこと
2027 年度地区会議の開催予定について

② 危害防運動について以下のとおり報告がなされた

1) 2026 年度危害防止運動“一声運動”媒体品

希釈早見表	円盤型	10,540 枚
	シール型	4,900 枚
ひと声運動ポスター		2,072 枚
毒物及び劇物譲受書		517 部
のぼり旗		600 枚
マスク		24 ケース

2) 危害防止活動（キャンペーン）の実施

3) 農薬安全適正使用ガイドブック 2026 年版の作成（次頁）

4) 指導農薬講習会の 2025 年実施と 2026 年の報告

5) 農薬の安全使用・取扱いに関するアンケート

2025 年の件数は 1,965 件、2026 年は現在集約中である。

6) その他の活動状況報告

無償分		有償分	
特別会員	183	安全協支部	3,090
正会員	1,215	組合員	289
非組合員	8	その他	81
行政関係機関	675	合計	3,460 部
賛助会員	100		
関係団体その他	59	無償＋有償分	5,700
合計	2,240 部	在庫	1,300
(2026年7月7日現在)		作製数	7,000 部

③ 植防研修会および農薬安全コンサルタントリーダー研修について報告された

- 1) 第 104 回植物防疫研修会（農薬安全コンサルタント資格） 報告
- 2) 第 105 回植物防疫研修会（農薬安全コンサルタント資格） 報告
- 3) 第 12 回 農薬安全コンサルタントリーダー研修会 報告

④ 事業収支見込について資料にて報告された

安全協事業費収支予算対実績推定表 支出の部 収入の部

(2) 2027 年度事業計画(案)が説明され以下のとおり承認された

① 2027 年度運動方針・事業方針・スローガン(案)について

2027 年（令和 9 年度） 運動方針・事業方針(案)

運動方針

事業方針

I 農薬安全推進運動の実施

II 技術販売体制の強化

III 一般消費者への農薬安全性広報活動の実施

IV 活動計画

(1)本部の活動計画

- ①安全協組織の強化
- ②全国集会の開催
- ③地区協議会の開催
- ④常任幹事会の開催
- ⑤賛助会員打合せ会
- ⑥農薬費低減のための行動指針
- ⑦農薬ガイドブック 2027 年版の編集・発行
- ⑧資料、情報などの配布・提供

- ⑨農薬安全コンサルタントの養成
- ⑩農薬安全コンサルタントリーダーの養成
- ⑪クロップライフジャパン、緑の安全推進協会及び商系諸団体との連携強化

(2)支部の活動計画

- ①県別の重点活動テーマの実施（農薬安全コンサルタントの技術向上の為の研修
- ②「指導農薬」講習会の開催
- ③道府県「農薬管理指導士」「農薬適正使用アドバイザー」との連携
- ④一般消費者への農薬の正しい理解のための農薬シンポジウムの開催
- ⑤道府県農薬危害防止協議会への積極的な参加
- ⑥農薬用保護具使用実態調査の実施
- ⑦空容器、残農薬、廃棄農薬の適正処理

スローガン

- 農薬は正しく使って安全・安心
- 農薬は作物を守る科学の力
- 農薬の技術向上、日々研鑽



- ②2027 年度事業収支予算(案)について
- ③第 49 回全国集会について
- ④農薬ガイドブック 2027 年版の発行について
- ⑤危害防止月間 一声運動媒体品について
- ⑥植防研修会および農薬安全コンサルタントリーダー研修会について
 - 1) 第 106 回植物防疫研修会
 - 2) 第 107 回植物防疫研修会
 - 3) 第 13 回農薬安全コンサルタントリーダー研修会
- ⑧農家アンケートについて（2027 年）

- (3) 各安全協道府県別活動報告 ～支部活動にあたっての問題点、要望～
各道府県幹事より回答のあった報告書により各地区常任幹事から説明があった

2. 講演会

「ヘソディムとは（仮題）」

特定非営利活動法人圃場診断システム推進機構 理事長 對馬 誠也 氏
質疑応答・意見交換

- 3. 会議・講演会後に懇親会が例年どおり行われ、盛況であった。

2. 第322回理事会

日時：2026年9月18日（木）14：30～16：40

形式：来所出席、書面審議

出席：理事 15 名中 12 名来社出席、3 名書面審議

監事 3 名中 3 名来社出席

出席役員：

（理事長）栗原秀樹 （副理事長）木幡光範

（理事）池田憲亮、山本真一、中村哲郎、村上昭一、青木貴行、田中公浩、
喜多泰博、金井正和、安武広信、今村健仁

（監事）佐藤友紀、鈴木健司、金田敏明

書面審議役員：佐藤浩一、伊藤一貴、橋爪雅彦

事務局より本日の会議出欠状況が報告され、理事会が有効に成立する旨が告げられた。

理事長より開会の挨拶

（1）議決事項

1）2026 年度決算(案)に関する件

理事会資料に基づき事務局から事業分野別に説明され、全員異議無く承認された。

2）組合員の脱退に関する件

・脱退

愛知県 カニ工農薬株式会社

全農薬加入 1965 年 11 月 30 日

代表者 蟹江憲

出資口数 6口 600,000 円

脱退日 2026 年 9 月 30 日で脱退

組合員の脱退について諮り、全員異議無く承認された。



栗原理事長

3）2027 年度事業計画(案)に関する件

資料に基づき事務局から事業計画(案)について説明し、異議無く承認された。

4）2027 年度安全協事業計画(案)に関する件

理事会資料に基づき事務局より安全協事業費(教育情報事業費)収支予算(案)につい

て説明し、2027 年度安全協事業費(教育情報事業費)収支予算(案)について諮り、全員異議無く承認された。

5) 共同購買事業新規取扱品目に関する件

全農薬の共同購買事業にて、取扱品目の値上げについて事務局より説明があり、承認された。

(2) 協議事項

1) 第 323 回理事会、第 61 回通常総会(議事)、安全協第 49 回全国集会の開催について

① 第 323 回理事会(第 61 回通常総会の上程議案の決議)

11 月 11 日(水) 13:00~15:00

② 第 61 回通常総会(議事)及び安全協第 49 回全国集会・情報交換会スケジュールについて

11 月 12 日(木)

「第 61 回通常総会」 海運クラブ 10:00~11:30

「議案審議終了後の行事」 11:30~12:00

「安全協 第 49 回全国集会」 13:00~14:10

「特別講演」 14:30~15:40

「全農の生産振興に向けた取り組み」

講師 JA 全農 耕種資材部 農薬課長 松下 佳史 様

「来賓祝辞」 16:00~16:25

農林水産省、一般社団法人 日本植物防疫協会、クロップライフジャパン

「全農薬創立 60 周年記念 情報交換会」 17:00~19:00

来賓祝辞 農林水産省 従来 2 名

乾杯 独立行政法人 農林水産消費安全技術センター

中締め 一般財団法人 残留農薬研究所

2) 全農薬ビル「共同での建て替え」への進捗について

これまでの経緯と今後のスケジュール等について事務局より説明があり、今後スケジュールどおり進めることが確認された。

3) 2026 年植物防疫ブロック会議について

2026 年の植物防疫地区協議会(植物防疫ブロック会議)日程

- ・北海道・東北地区植物防疫協議会 未定
- ・関東地区植物防疫協議会 12 月 8 日(火)~9 日(水)

さいたま新都心合同庁舎 対面・Web 開催予定

- ・植物防疫北陸地区協議会 未定
- ・植物防疫東海・近畿地区協議会 11月26日(木)PM~27日(金)AM
名古屋第4地方合同庁舎 対面・Web 予定
- ・植物防疫中四国地区協議会 11月17日(火)PM~18日(水)AM
広島合同庁舎2号館 対面開催
- ・植物防疫九州・沖縄地区協議会 11月17日(火)PM~18日(水)AM
宮崎県庁防災庁舎5階会議室 対面開催

(3) 報告事項

1) 各委員会報告

- ・総務委員会 青木委員長
全農薬ビルの建て替え、協議事項2)で説明・協議されたとおり。
- ・経済活動委員会 田中副委員長
全農薬の取扱品目について市場分析とシェア拡大策を検討していく
- ・教育安全委員会 安武副委員長
常任幹事会の報告、農薬安全コンサルタントリーダー研修会についての説明
- ・IT・広報委員会 中村委員長
受発注システムの運用の今後の方向性、利便性向上を検討していく。
- ・役員選考準備委員会 村上委員長
各地区推薦者、本部推薦者、立候補者の状況など説明



総務委員会



経済活動委員会



教育安全委員会

2) 第53回安全協常任幹事会報告 教育安全委員会の報告のとおり

3) 第13回農薬コンサルタントリーダー研修会 10/14~16に開催することの報告

4) 2027年2月地区会議日程について 下記日程で会場は確保済みで開催を予定する。



IT 広報委員会

2027 年

2 月 02 日 (火)	中四国地区	オークラホテル丸亀
2 月 03 日 (水)	近畿地区	大阪ガーデンパレス
2 月 04 日 (木)	東海地区	メルパルク名古屋
2 月 09 日 (火)	北陸地区	石川県地場産業振興センター (県施設)
2 月 16 日 (火)	東北地区	TKP ガーデンシティプレミアム仙台西口 ホール 6C (貸会議室)
2 月 17 日 (水)	関東甲信越地区	東京ガーデンパレス
2 月 18 日 (木)	北海道地区	自治労会館 (札幌)
2 月 19 日 (金)	九州地区	熊本城ホール大会議室 A1 (県施設)

2021 年以降、毎年準備し受講している Web 研修教材 (事務局手配教材、各地区手配教材＝地区会議議講演教材、指導農薬教材) を全農薬 HP の安全協ポータルサイトにアップし、アンケートに答えて貰う研修は、組合員からこの Web 研修環境を継続すべきとの意見を貰っており継続し実施したい。

各地区で準備する 2 コマの研修講師・教材準備手配を、年内早い時期から引き続きお願いしたい。



5) 2026 年度支部別特別奨励実績について 8 月累計資料に基づき事務局より報告された。

6) 2026 年 組合員事業所永年勤続従業員表彰について資料に基づき事務局より報告された

副理事長より閉会の挨拶

議事終了し閉会となった。



木幡副理事長

3. 日本植物防疫協会シンポジウム報告

「難防除病害虫・雑草の最前線」

日時：2026年9月15日（火）10：00～

場所：「北とぴあ」つつじホール（東京都北区王子）

参加：鈴木参事、植草技術顧問

参集範囲：国及び都道府県の行政・試験研究機関、普及指導機関、独立行政法人、
大学、JA、農薬メーカー、防除機メーカー及び関係団体

開催方法：会場及びオンラインでの参加

会場には約140名、オンライン参加も含め900名超の参加

開会挨拶：早川理事長

プログラム

- (1) 難防除病害虫・雑草防除の取り組み
農林水産省消費安全局 物防疫課 白石正美 氏
- (2) 土壌線虫害の種類と対策概要
農研機構 植物防疫部門 酒井啓充 氏
- (3) 土壌線虫害に対する農業現場での対応
宮崎県総合農業試験場 黒木修一 氏
- (4) 土壌病害とその対策のこれまでと今
日本植物防疫協会 守川俊幸 氏
- (5) 茨城県の研究機関における土壌病害の研究事例
茨城県農業総合センター鹿島地帯特産指導所 宮本拓也 氏
- (6) 難防除雑草の防除対策
日本植物調節剤研究協会 中山貴史 氏



早川理事長

総合討論



4. 第41回報農会シンポジウム

『植物保護ハイビジョンー2026』の報告

～我が国農業の窮地打開に向けた植物防疫の貢献ーIPMと輸出拡大～

主催：公益財団法人報農会

協賛：一般社団法人日本植物病理学会、一般社団法人日本応用動物昆虫学会、
一般社団法人日本雑草学会、一般社団法人日本農薬学会

日時：2026年（令和8年）9月30日（水） 10：00～16：45

場所：「北とぴあ」つつじホール（東京都北区王子1-11-1）

参加：鈴木参事、植草技術顧問

<プログラム>

開会挨拶：報農会 田付貞洋 理事長

・講演：

総合防除(IPM)の推進及び現場での実践

農林水産省 植物防疫課 藤井達也 氏

IPMのイノベーションー新たな視点で未来型のIPMへー

東京農業大学総合研究所 山本敦司 氏

世界と日本におけるバイオステミュラントとその意義

日本バイオステミュラント協議会 和田哲也 氏

除草剤抵抗性の歴史と現在の課題ーヒエ属における抵抗性の出現ー

東京農工大学 農学部 岩上哲史 氏

種子健全性検査の現状と課題

鳥取大学 農学部 木戸一考 氏

・総合討論



功績者表彰式がシンポジウム終了後同じ会場において、植物防疫の発展に寄与された功績者の表彰式が開催された。

第41回功労賞受賞者（4名・五十音順）

・竹内妙子 氏（たけうち たえこ）

職歴 千葉県農業改良普及課、農業試験場、農業総合研究センター等

業績 ●灰色かび病、うどんこ病等各種薬剤耐性菌の発生生態の解明と
ローテーション散布等防除対策
●ミツバ、トマト、ネギ等の養液栽培における根部病害の発生生態の解明と
温湯消毒の利用など防除対策の確立に尽力
●減農薬栽培技術など環境保全型農業技術の開発、「千葉エコ農業」の
認証基準の策定に関わり

・伊達寛敬 氏（だて ひろたか）

職歴 岡山県立農業試験場、農業総合センター、公財）日本植物調節剤研究協会等

業績 ●促成栽培ナスの青枯病の発生生態を解明するとともに総合防除対策の
確立と普及に貢献
●オオムギ縞萎縮病やトマト萎凋病などの土壌病害の発生生態解明と
防除対策の確立に寄与
●病虫害防除所における的確な発生予察情報の提供、専門技術員での
病虫害診断や防除対策指導に尽力

・山代千加子 氏（やましろ ちかこ）

職歴 新潟県農業試験場、病虫害防除所、農業大学校等

業績 ●イネミズゾウムシの分布拡大や発生消長等の調査に基づく
精度の高い要防除水準を確立
●イネクビホソハムシの発生程度や越冬密度の調査の基づく
箱処理剤施用の要否判断を行い薬剤使用軽減に寄与
●ニカメイガの地域単位での要防除水準を設定し効率的かつ
環境に配慮した防除実施に尽力

・吉沢治 氏（よしざわ おさむ）

職歴 農林水産省農蚕園芸局植物防疫課、新農林技術新聞社社主等

業績 ●新農林技術新聞社を立ち上げ、植物防疫、農薬の安全と適正利用等に
関する情報を植物防疫関係者へ幅広く提供
●病虫害・雑草防除、農薬に関する農水省の考え方、試験研究機関の
研究成果、病虫害の発生動向と防除対策等をわかりやすく紹介
●新農薬情報、農薬登録情報、農薬会社の動向、関係学会等の
各種シンポジウムの講演内容等を適時的確に紹介

行政からのお知らせ

1. 生物農薬に係る各種通知及び原体審査ガイダンスの一部改正について

8消安第 1504 号

令和8年7月1日

全国農薬協同組合理事長 殿

農林水産省消費・安全局長

「微生物農薬の登録申請において提出すべき資料について」の一部改正について

「微生物農薬の登録申請において提出すべき資料について」（令和6年4月1日付け5消安第 7650 号農林水産省消費・安全局長通知）を別紙のとおり改正したので、お知らせします。

8消安第 1505 号

令和8年7月1日

全国農薬協同組合理事長 殿

農林水産省消費・安全局長

「天敵農薬の登録申請において提出すべき資料について」の一部改正について

「天敵農薬の登録申請において提出すべき資料について」（令和6年4月1日付け5消安第 7651 号農林水産省消費・安全局長通知）を別紙のとおり改正したので、お知らせします。

8消安第 1517 号

令和8年7月1日

全国農薬協同組合理事長 殿

農林水産省消費・安全局農産安全管理課長

「有効成分の物理的・化学的性状及び農薬原体の組成に係る審査ガイダンス」の一部改正について

「有効成分の物理的・化学的性状及び農薬原体の組成に係る審査ガイダンス」（令和7年10月1日付け7消安第 3924 号農林水産省消費・安全局農産安全管理課長通知）を別紙のとおり改正したので、お知らせします。

8消安第 1865 号

令和8年7月1日

全国農薬協同組合理事長 殿

農林水産省消費・安全局農産安全管理課長

「微生物農薬の農薬登録申請時に提出する資料について（微生物農薬ドシエガイダンス）」の策定について

「微生物農薬の登録申請において提出すべき資料について（令和6年4月1日付け5消安第 7650 号農林水産省消費・安全局長通知）」に示す微生物農薬の登録申請の際に提出する農薬の安全性その他の品質に関する試験成績を記載した資料及び見本に係る資料の標準的な構成、様式、記載方法等を取りまとめたので、お知らせします。

8消安第 1866 号

令和8年7月1日

全国農薬協同組合理事長 殿

農林水産省消費・安全局農産安全管理課長

「天敵農薬の農薬登録申請時に提出する資料について（天敵農薬ドシエガイダンス）」の策定について

「天敵農薬の登録申請において提出すべき資料について（令和6年4月1日付け5消安第 7651 号農林水産省消費・安全局長通知）」に示す天敵農薬の登録申請の際に提出する農薬の安全性その他の品質に関する試験成績を記載した資料及び見本に係る資料の標準的な構成、様式、記載方法等を取りまとめたので、お知らせします。

各通知について別紙等については以下の農水省ホームページより参照

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_touroku/

<https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>

2. ゴルフ場で使用される農薬に係る令和7年度水質調査結果について

令和8年9月8日

環境省水・大気環境局 環境管理課

1. ゴルフ場で使用される農薬について、令和7年度に都道府県等が実施したゴルフ場排水等の水質調査の結果を取りまとめましたので公表します。
2. 本調査は、延べ2,064か所のゴルフ場を対象に、延べ34,773検体について実施しました。
3. その結果、ゴルフ場の排水口調査で、水濁指針値を超過した事例が1件、水産指針値を超過した事例が1件ありました。
4. 調査結果を踏まえ、都道府県に対して、超過の要因を分析するとともに、ゴルフ場関係者への再発防止に向けた指導を実施するよう求めてまいります。

環境省では、毎年、地方公共団体等が実施したゴルフ場排水等の水質調査結果を取りまとめて公表しており、この度、令和7年度の調査結果を取りまとめました。

■ 令和7年度水質調査結果の概要 【前年度調査実績】

- [1] 調査が実施された都道府県数：47 【47】
- [2] 調査対象となったゴルフ場数：延べ2,064か所※1 【延べ2,095】※1
- [3] 総検体数：34,773検体 【35,012】
- [4] 排水口調査検体数：10,250検体 【10,310】
- [5] 水濁指針値超過検体数※2：1検体（別添1、2のとおり） 【2】
- [6] 水産指針値超過検体数※2：1検体（別添1、2のとおり） 【7】

※1 調査回数に基づく延べ数であり、同一ゴルフ場において春季・秋季など時期を変えて調査を実施した場合は、それぞれ別の調査として計上している。

※2 評価に用いた指針値は令和8年1月29日時点のものです。

【別添1】 都道府県別の水質調査結果

<https://www.env.go.jp/content/000426754.pdf>

【別添2】 農薬別の水質調査結果（排水口）

<https://www.env.go.jp/content/000426756.pdf>

■ 直近5年間（令和3～7年度）の状況（別添3のとおり）

排水口調査において水濁指針値又は水産指針値を超過した検体数は、排水口調査検体数に占める割合としては低い水準で推移しており、年度により一定の増減はあるものの、おおむね減少傾向にあります。

【別添3】水質調査結果の経年推移（令和3～7年度）

<https://www.env.go.jp/content/000426757.pdf>

■ 調査結果を踏まえた対応

排水口調査の結果、水濁指針値及び水産指針値を超過した事例が認められたことから、指導指針に基づき、当該ゴルフ場における農薬の使用状況及び排出水の管理状況等を確認した上で、ゴルフ場関係者を対象に農薬の適正使用及び再発防止に向けた必要な指導を行うよう、都道府県に求めることとします。

また、複数の農薬で分析の定量下限値が指針値を上回っており、指針値を超過しているかどうか不明な事例が引き続き認められたことから、事例が認められた県に対して、指針値を踏まえた適切な定量下限値を設定して分析を行うよう改めて求めてまいります。

1. 初使用の農薬も効かない水田雑草、耐性の仕組みを解明

東京農工大学・筑波大学・富山県立大学などで、複数の除草剤が効かない水田の雑草について、これまで使われていなかった除草剤に対しても耐性がある仕組みの一端を明らかにした。様々な除草剤と反応しやすい構造を持つ2種類の酵素が除草剤を無効化していた。

農工大の岩上哲史准教授らは水田に生息してイネの生育の妨げになる雑草「タイヌビエ」が除草剤に耐性を持つ仕組みを調べた。タイヌビエは米カリフォルニア州で複数の除草剤が効かなくなる「多剤抵抗性」が出現し、問題となっている。

この多剤抵抗性のタイヌビエは現地で使われてこなかった「合成オーキシシン系除草剤」と呼ばれる農薬も効かないことが判明している。この仕組みは謎だった。

他の除草剤はタイヌビエが持つ2種類の酵素が除草剤を解毒して効果を打ち消していることが分かっていた。今回の研究で合成オーキシシン系除草剤についても同じ2種類の酵素によって耐性が生じていることが明らかになった。

合成オーキシシン系除草剤は他の除草剤と化学構造が大きく異なる。コンピューターで詳しくシミュレーション（模擬実験）すると、解毒に働く2種類の酵素は様々な化学構造の除草剤と安定して反応しやすい形状になっていると考えられた。

田んぼに種もみを直接まく「直播（ちょくはん）栽培」の広がりとともに、日本国内でも複数の除草剤が効かないタイヌビエが各地で見つかり始めており、今後拡大する恐れがある。

今後、多剤抵抗性の仕組みが詳しく分かれば、解毒されにくい新しい除草剤の開発などに役立つ可能性がある。

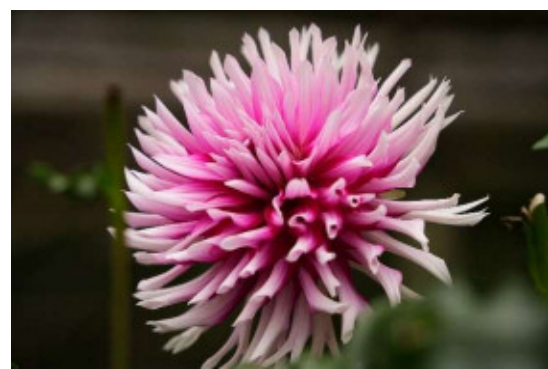
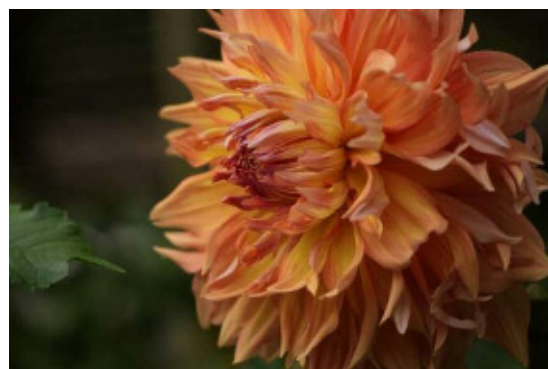
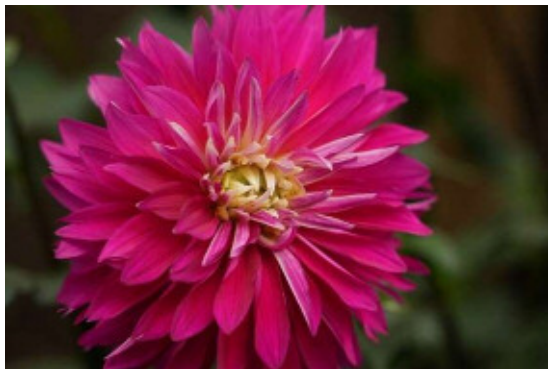
共同研究の成果として、化学分野の国際学術誌に掲載された。



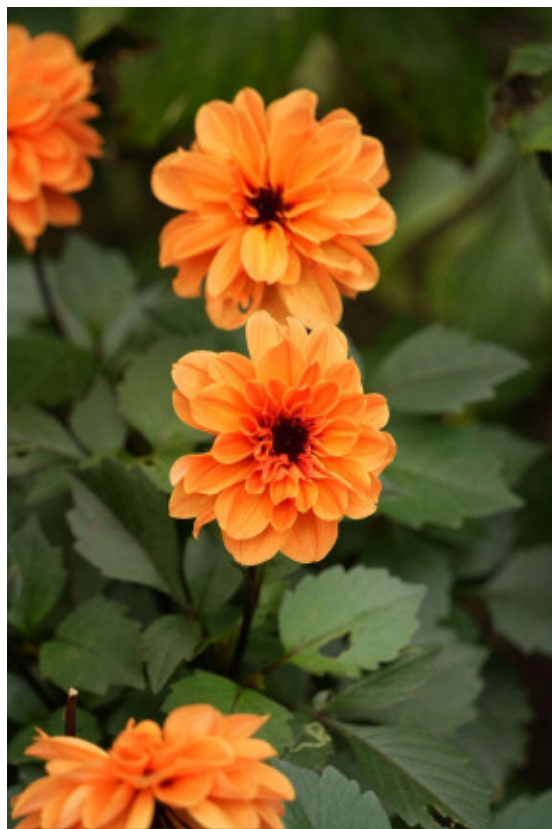
写真：水田のタイヌビエ

全農薬ひろば

ダリア（天竺牡丹、英語: dahlia、学名：*Dahlia* Cav.）







ダリアはキク科・テンジクボタン属に分類され、メキシコ原産の多年草植物です。花の見頃は7月～10月頃で、まるで牡丹のような花姿であることから和名では「天竺牡丹（テンジクボタン）」と呼ばれています。写真は上野東照宮ぼたん園のダリアです。

2022年10月 撮影（宮坂氏）

花言葉：『華麗』『優雅』

『気品』『威厳』

